芦高二十五史発行について

学校長　大橋茂樹

本校はさきに、十五年史、つづいて、二十年史を世に送って、過去十五年、あるいは、二十年間の本校飛躍的発展の跡づけをしたのである。

このたび、二十五年史発刊に当っては、その主眼を、一には、過去二回の年史発刊に当って、漏れていて、このたび追記すべきものを集録するとともに、一つには、二十五年という区切りにおいて、過去五年の実録を保存し、これによって、将来の年史発刊に便宜をうるとともに、過去を反省することによって、本校発展に対する決意を更に新しくすることをねらいとした次第である。

十五年史発刊においては、極めて、短日月の間に素晴らしい発展を成就したことに対して、各方面からの心からの慶祝をうけ、更に二十年史の場合においては、その後の多年の懸案事項であった、施設の拡充と教育内容の刷新強化の実績――世に誇りうる――を集大成して世に送られたとおもう。

さて、その後の五年間は、未曽有の高校進学者急増期に際会し、本校生徒数は、昔日に比し、極度に増加、これに伴う所要教職員の確保、物的環境整備の必要、これに加えて、予期しなかった、第二阪神国道開通によって生じた騒音問題等々、いろいろの意味で、芦高苦難の五年であった。二十五周年を迎えた今年、ようやく、生徒急増も退潮期に入り、施設整備案件のうち、騒音に対する恒久対策の一部が、関係当局により着手される運びとなり、ある面での苦難期

は終末にいたったとおもうのである。この間における、関係当局、地域社会、育友会、同窓会よりの物心両面にわたる御支援御理解御協力に対して、この際、心から深甚なる感謝の誠を捧げたい。

二十五年という年月は、所謂一世代であって、人が生れて、一人前に成長するに要する期間である。本校も、人にたとえるならば、大学を卒業し、実社会の経験二、三年の、大いに張切り、もりもり、と働く意欲に燃えている、たくましい個性豊かな青年ということができよう。

各方面の学校関係者の御理解御支援に恵まれ、芦高職員生徒が、真に挙校一体の実をあげていくならば、この芦高と云う青年の未来は輝かしいものとなることを信じて、疑わない。

物の考え方、価値判断にいろいろありうる今の世にあっても、徒らに、右顧左眄することなく、先輩が没個性の風潮に流されることなく築いて来られた個性のある伝統的美風たる、自由自治の校風に更に輝きを加えるよう努力する決意を新しくすることこそ二十五周年を迎えるに当ってふさわしい態度であるとおもうものである。

俗なことばで恐縮ではあるが、『味噌の味噌臭きは本味噌に非ず。』という諺をおもいだすのである。一世代の歳月を経た現在、臭味を脱した真の自由自治の精神が学園のあらゆる面に浸透し花を咲かせ結実することを念じる次第である。

本校は、幸に地域環境に恵まれているので、『人はその子の悪を知ることなし。』という教訓による自重と謙虚な自省を忘れないとき、この念願の達成は決して不可能を望むことにはならないとおもう。

終りに、重ねて、この二十五年間に、本校の発展に、御力添えを賜わった各方面の方々に心から御礼を申上げて発刊のことばといたします。